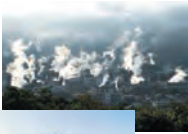




2 エッセイ／“おかね”を語る
お金の不思議 作家 有栖川有栖



4 インタビュー／扉を開く
高倉麻子 プロサッカー監督
 日本人らしさと自己主張を大切にサッカーを



9 地域の底力
温泉とともに生き さらなる未来を切り開く
 大分県別府市・由布市



18 対談／守・破・創
富山和彦 株式会社経営共創基盤 (IGPI) 代表取締役 CEO
岩田規久男 日本銀行副総裁
 GとLに二分化する日本経済 再生に向けて新陳代謝を促せ

24 FOCUS → BOJ 20 日本銀行国際局「国際連携課」の仕事
G20・G7・EMEAPなどの
日銀が参加する「国際会議」を支える

日本銀行のレポートから

- 28 「量的・質的金融緩和」導入以降の経済・物価動向と政策効果についての総括的な検証 (総括的検証) —2016年9月—
- 30 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2016年10月—
- 32 「金融システムレポート」 —2016年10月—



36 トピックス
FinTechフォーラムを開催ほか

39 AIR MAIL from Washington, D.C.
自転車通勤の先進都市

表紙のことは
 日本銀行高松支店は、第二次大戦中の昭和十七年(一九四二)二月に、日本銀行の第二一番目の支店として開設されました。四国では、既に松山支店が開設されていました。戦火の広がりに伴って、交通網が寸断される恐れから、香川・徳島・高知の三県への円滑な現金供給を目的に設置されました。

最初の店舗は、昭和二十年(一九四五)七月の空襲により、金庫を除き全焼しましたが、一日たりともお金の供給に空白を生じさせないため、店舗焼失の翌日には、百十四銀行の一角を間借りして営業を再開しました。

表紙の店舗は、空襲の翌八月に、旧高松信用組合の建物を受け継いで営業を開始した二代目店舗です。昭和五十五年(一九八〇)四月に現在の場所に移転されるまでの約三五年にわたり、高松を見守り続けました。二代目の店舗跡地には、昭和六十三年(一九八八)、高松市美術館が新築移転されました。館内には、二代目店舗入り口の石組みが今でも遺されています。



表紙・画 北村公司